

資料名	概要
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術時または術後に出血の起こった症例 → 「血友病の症例を除き出血が停止した」 ・ 低フィブリノーゲン血症予防の症例 → 「いずれも出血は起こらなかった」 <p>副作用の記述 「全例（24例）に於いて何ら特記すべき副作用は見られなかった」</p> <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なお、資料「フィブリノーゲン-BBank 使用後における観察」²⁷（村上文夫）では、上記村上報告の臨床実験のうち、出血後にフィブリノーゲン製剤を投与された7例全例において輸血が併用されていたこと、また肝炎発生が1例存在していたが、その原因は併用された輸血によるものと判断されていたことが記載されている。
<p>⑤ フィブリノーゲン-BBank の使用経験 （徳沢邦輔）²⁸</p>	<p>P(patient, 患者) 手術侵襲に関連して発生したフィブリノーゲン減少症 22 例 ※フィブリノーゲン濃度の記載なし</p> <p>前立腺癌 1 例 胃癌 4 例 バンチ氏症候群 2 例 肺癌 4 例 脾剔出 2 例 膵剔出 2 例 肺切除 2 例 直腸癌 3 例 紫斑病 1 例 前立腺剔出 1 例</p> <p>E(exposure, 曝露) フィブリノーゲン-BBank を使用</p> <p>C(comparison, 比較) なし</p> <p>O(outcome, アウトカム) 所期の目的を達した</p> <p>副作用の記述 一覧表の『副作用』欄にて、全症例において『なし』と記載</p> <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者名、病名、フィブリノーゲン-BBank 使用量、副作用有無を記した表が記載されているのみで詳細内容は記載されていない。
<p>⑥ 先天性無フィブリノーゲン血症の一例 （土屋与之ら）²⁹</p>	<p>P(patient, 患者) 先天性無フィブリノーゲン血症 1 例</p> <p>E(exposure, 曝露) 日本ブラッド・バンク提供のフィブリノーゲン製剤を静脈内に持続点滴注入</p>

²⁷ 村上文夫「フィブリノーゲン-BBank 使用後における観察」1962(昭37)年頃（東京甲 B29）

²⁸ 徳沢邦輔「フィブリノーゲン-BBank の使用経験」1962（S37）年頃（東京甲 A195）

²⁹ 土屋与之ら「先天性無フィブリノーゲン血症の一例」1962（S37）年頃（東京甲 A196）